

平成30年度 唐津市立馬渡小中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
思いやりを持ち(徳)、自ら学び(知)、心身を鍛え(体・情)、21世紀を生き抜く児童・生徒の育成	① 小中一貫教育による個性の伸長 ② 人権・同和教育や道徳教育を柱にした特別支援教育の充実(児童生徒対応力の向上) ③ 新指導要領移行を見据え、単元計画の見直しによる主体的・対話的で深い学びの推進 ④ 関連機関との連携強化による、きめ細かな指導の充実

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 小中一貫教育による個性の伸長 ☆教務、児童生徒育成部(学習習慣部)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○小中連携	小中学校職員の協働による教育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。 ・生徒会活動と児童会活動の小中一貫化を工夫し、実践の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の副担任は小学校の副担任として、学級活動と道徳の時間等にT.Tとして月1回以上は授業に参加する。 ・中学校の生徒会活動と小学校での児童会活動で、小中合同でできる活動を工夫し、実践する。 ・中学校から小学校への乗り入れ授業を実施し、早期より専門性の高い指導を実施する。
		基本的な学習習慣の系統性と定着	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習習慣(まだらっ子スタイル)の児童生徒への指導の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まだらっ子スタイル」の内容を授業の始めに確認し、毎日振り返りを実施する。 ・学級通信等で「まだらっ子スタイル」の取り組みを紹介し、「自分向上シート」で把握した児童生徒の学習習慣の実態を紹介し、連携を図る。

② 人権・同和教育や道徳教育を柱にした特別支援教育の充実(児童生徒対応力の向上) ☆児童生徒育成部(学習習慣部)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解や他者理解を深め、友達を大切に作る仲間づくりを進める。 ・人権意識を高め、差別や偏見に気付き、差別をなくそうとする実践力を育成する。 ・一人一人が尊重され、認め合える授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、小中連携の活動を通して、自分も友達も大切に作る場を設定する。 ・年間を通して言葉遣いや人権について考える機会を設け、まとめとして人権週間を設定し、人権について考えさせる。 ・人間関係づくりを促進するような学びあい活動や、ピアメディエーションの手法を取り入れた授業実践を行う。
		道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業を中心に、心の教育につながる教育活動を計画し、実践を継続する。 ・道徳の授業を年1回以上公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を配慮したりスクールカウンセラーの助言を受けたりしながら、年間計画をより活用した授業実践を行う。 ・「唐津市教育の日」に合わせて、全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の人に呼び掛け、参加型の授業を実施する。
	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見・早期対応と仲間づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケート調査と教育相談の実施等により、いじめの実態把握をする。 ・日頃から、児童生徒と関わりをもち、いじめや悩み等を訴えやすい雰囲気をつくる。 ・いじめを絶対に許さない、学校全体での支持的風土づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や部会での情報交換や協議を定期的に行い、学校生活アンケートや教育相談週間による情報収集を通して、いじめの予防、早期発見・早期解決に努める。 ・あいさつ運動等で、積極的に児童生徒に声掛けをすると共に、様子を把握し、関係作りを努める。 ・自己肯定感と他者理解を高めるために、スクールカウンセラーを活用して、グループエンカウンター等の授業を学活・道徳の時間に実践していく。
		○特別支援教育	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に係る職員研修を充実させる。 ・個別の指導・支援計画を作成し、実践を図る。 ・校内教育支援委員会等を通して、対象生徒の共通理解を図り、よりよい支援体制をつくりめざす。

③ 新指導要領移行を見据え、単元計画の見直しによる主体的・対話的で深い学びの推進 ☆教務、児童生徒育成部(学習習慣部)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	指導形態の工夫や「あいタイム」の深化による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導や小中連携の活動を通して、基礎学力の向上を図る。 ・「あいタイム」を活用した授業研究を進め、評価を通じてねらいの明確化をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた授業中の個別指導や補充指導の時間を設定し、基礎学力の定着を図る。 ・「はえなわタイム」「全校合唱」など小中連携の縦割り班活動による学びあい活動を行う。 ・全教員が「あいタイム」を取り入れた授業研究を進め、授業を公開し、校内研究を充実させる。授業では、思考ツールの導入や思考スキルの使用を促す。ねらいの明確化のため、ルーブリック評価も取り入れた授業を構築していく。
		家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた家庭学習時間をさせる。(10分～15分×学年 例：15分×6年＝90分) ・*中1＝7年 中2＝8年 中3＝9年 ・学習のしかたのオリエンテーションを実施し、学活ノートを活用したスケジュール管理能力を養わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の仕方についての「家庭学習の手引き」を周知することで、児童生徒、家庭へ家庭学習の大切さを知らせる。 ・家庭との連携を図り、点検表などで実態状況を確認する。 ・全校児童生徒・教師で、5教科の学習のしかたや、「予習—授業—復習—テスト」のサイクルでの勉強をすすめることや、自学ノートを使った記憶の定着方法について共有する。担任は、毎日児童生徒が記入した学活ノートの学習記録欄をチェックし、日々の学びの支援を実践していくことで学力の向上を図る。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT活用による学習内容の理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板及び電子教科書を効果的に活用する。 ・ICT活用に関する職員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用に関する職員研修等を通して、電子黒板やIpad等のより効果的な活用方法について研修し、教職員のICT活用スキルの向上を目指す。

④ 業務改善と、関連機関との連携強化によるきめ細かな指導の充実 ☆校長、教頭、教務、特別支援教育校内委員会

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務処理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な学校運営に取り組み、業務の効率化と分散化を図る。 ・校内LANやSEI-Net等を有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会を中心として、行事・企画を精選し、学年等が活動しやすい環境づくりをする。 ・共有フォルダを活用して、様式・業務データの共有化を図り、効率的な業務遂行に努める。
	○関係機関との連携	聖母園・児童相談所等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・聖母園、児童相談所等と連携を図り、児童生徒の生活の実態を把握することで、きめ細かな指導の充実を図る。 ・校内においては、職員間の共通理解を図り、該当児童生徒に対する効果的な指導方法を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖母園に積極的に出向き、しっかりと連携をとりながら児童生徒の実態に即した指導を行う。 ・各所から得た情報を職員間で情報共有し、生徒指導協議会で対応を協議することで毎日の指導を充実させる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 ☆児童生徒育成部(学習習慣部)、保体部

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康体づくり	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・「起床」「就寝」「食事」など、規則正しい生活習慣の定着を目指すことを継続する。 ・月目標を設定し、それを意識した学校生活を心がけさせることを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分向上シート」を活用し、児童生徒の生活実態調査を行う。また家庭に週1回持ち帰り、保護者との連携を図る。学級活動で生活習慣を見直す機会を設ける。 ・意識調査を行い、結果を校内に掲示する。学級通信等で児童・生徒の実態を家庭へ連絡し、連携を図る。
		食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の朝食摂食率100%を継続する。 ・「食に関する指導」を学級活動や保健の中に位置付け、児童生徒に指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂食調査を実施して状況を把握し、家庭と連携して指導する。 ・全校朝会や小中学校別朝会などで、実態に応じた栄養指導を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目